

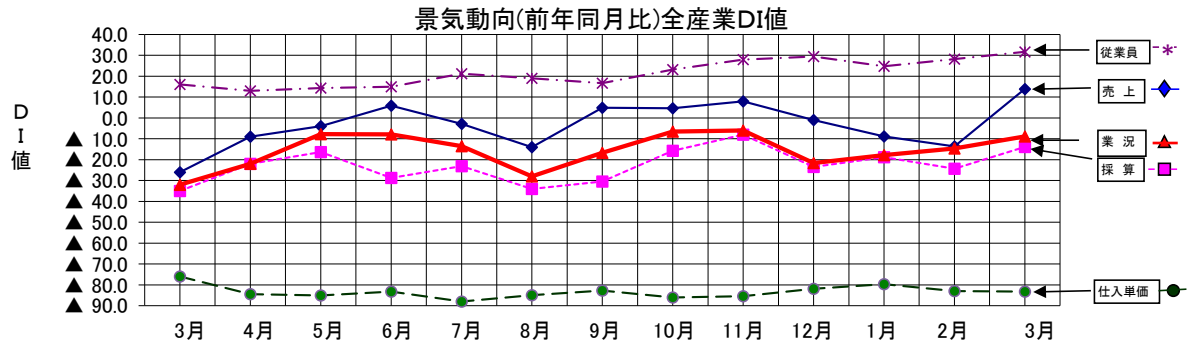
早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 3月分

【3月の概要】

「売上」は4か月ぶりにプラスに転じ、「採算」も改善するも依然として資材高騰、人手不足などの状況は続く

業況判断を示すDI値は、「売上」で27.5ポイント改善し、4か月ぶりにプラスに転じた。また、「採算」も10.4ポイントと2ケタ台の改善となった。一方で、「採算」「業況」「仕入単価」は依然としてマイナス水準にあり、力強さには欠ける。

コメントを見ても、燃料や原材料価格等の高騰が企業経営に大きく影響を及ぼしている様子が窺える。価格転嫁も進んでおらず、人手不足も深刻である。新型コロナの5類への移行を目前に、一部では売上がコロナ前まで回復しているとする声もあるものの、依然として苦しい状況は続くものと思われる。



【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合) ※従業員=(不足)-(過剰)

	2022年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	2023年 3月
売上	▲ 26.0	▲ 9.0	▲ 3.9	5.9	▲ 2.9	▲ 14.0	4.9	4.6	8.0	▲ 1.0	▲ 8.9	▲ 13.6	▲ 13.9
採算	▲ 35.0	▲ 22.0	▲ 16.4	▲ 28.7	▲ 23.1	▲ 34.0	▲ 30.4	▲ 15.7	▲ 8.0	▲ 23.5	▲ 18.8	▲ 24.3	▲ 13.9
業況	▲ 32.0	▲ 22.0	▲ 7.7	▲ 7.9	▲ 13.5	▲ 28.0	▲ 16.7	▲ 6.5	▲ 6.0	▲ 21.6	▲ 17.8	▲ 14.6	▲ 8.9
仕入単価	▲ 76.0	▲ 84.5	▲ 85.1	▲ 83.2	▲ 88.0	▲ 85.0	▲ 82.8	▲ 86.1	▲ 85.5	▲ 81.9	▲ 79.7	▲ 83.0	▲ 83.2
従業員	16.0	13.0	14.4	14.9	21.2	19.0	16.7	23.2	28.0	29.4	24.8	28.2	31.7

- ・プラス幅が増加したDI値：従業員3.5ポイント（人手不足局面へ）
- ・マイナスからプラスに転じたDI値：売上27.5ポイント
- ・マイナス幅が減少したDI値：採算10.4ポイント、業況5.7ポイント
- ・マイナス幅が増加したDI値：仕入単価▲0.2ポイント

向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
1月	7.9	▲ 12.9	▲ 12.9	▲ 60.4	29.7
2月	4.9	▲ 11.7	▲ 11.7	▲ 61.2	28.2
3月	4.0	▲ 16.8	▲ 18.8	▲ 55.5	32.7

- ・見通しが改善したDI値：仕入単価5.7ポイント
- ・見通しが悪化したDI値：売上▲0.9ポイント、採算▲5.1ポイント、業況▲7.1ポイント、従業員4.5ポイント（人手不足局面へ）

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	管工事業	人手不足と建設資材・ガソリン単価の値上げが深刻。新卒採用も厳しい状況。
	ガス設備	若い社員を採用できない。また、若い世代に対し「見て覚えろ」的な従来型の指導法では通用しなくなっている。
製造業	印刷	大手企業や食品関係で値上ラッシュ。人件費を上げるためには価格を上げざるを得ない。
	製菓	電気・ガス料金の高騰に加え原材料の値上げ要請が後を絶たない。一方、価格転嫁は追いついていない。
卸売業	食品	3年間のコロナシフトによる生活習慣の変化が消費活動にどのような影響を与えるか懸念する。
	青果	卵をはじめ食料品価格の値上がり傾向で、消費者の財布のひもは固い。
小売業	印鑑・印刷	雪解けとともに、不景気が解消していくことを願っている。
サービス業	レストラン	昨年の2月前後は時短要請で売上が落ちていたが、今年はコロナ前に回復している。
	タクシー	運賃改定があったが、物価高で価格転嫁ができていない。業界全体に人手不足がこれまでより顕著になってきた。
	ソフトウェア	インボイス、電子帳簿の制度は、よく知らない人も多く、混乱と事務負担が増すことが予想される。